

114  
A 4507



ヘシヨク  
フシニレトボルト氏呈上

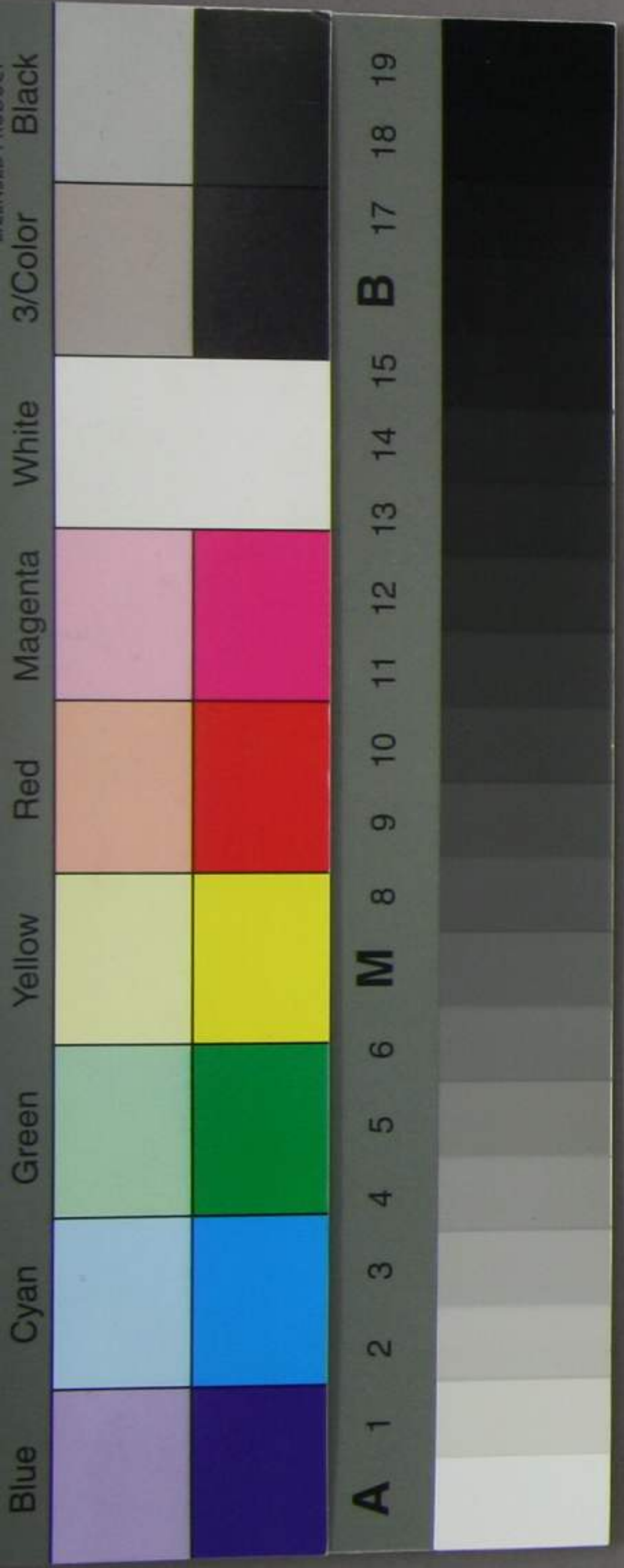
財政改良論 (概シテ收税ニ関ス)

大正十一年四月  
隈侯爵郵寄贈

ノ多シ殊ニ概シテ諸税ノ増加ニ関シテ其財政ノ改革ヲ論スル  
モノ多シ

余輩次條ニ於テ從來施行セル理財法即チ歐洲ノ各重立タル國  
ニ於テ施行セル各種ノ理財法ヲ周密ニ検査スベシ  
夫レ租税ノ輕減ハ之レヲ實際ニ施シテ果シテ國家ノ利益トナ  
ルベキ乎否ラザル乎ニ関シテ其疑問ヲ証明セニハ實ニ困難  
ニシテ其皮相ノ見ニ於ケルカ如ク易々タルモノニ非ザルナリ  
例之ハ租税ノ剩餘(歳入ヨリ歳出ヲ為セシ後ノ餘財)ヲ散シテ之  
レヲ租税輕減ノ為ニ使用スルハ美事ナリトスルニ於テハ余輩  
意見ヲ立テ第一ニ其租税ノ金額タルヤ抑モ徴收支出共ニ其宜  
ヲ得テ之レヲ徴收スル過度ニ出テス又々之レヲ支出スルモ各

2961





惜ニ亘ラザリシヤ其如何ヲ考察セザルベカラザルナリ第二ニ  
ハ政府ノ其餘財ヲ費用ニ供スルニ付テハ其思慮ハ如何ノ事ヲ  
興起進歩セント欲スルヤ又々其事ノ緩急輕重ヲ論ヤザルベカ  
ラザルナリ

右二問題ヲ熟考スレハ國費ノ國ニ於ケルヤ其レ至要ノ大事ナ  
リ而シテ抑モ國費ハ一ニハ其預算ニ根據シテ之レヲ支出スル  
モノナリニニハ之レヲ國ノ需要ト同等比較スルヲ得ベキモノ  
ナリ即チ國費ナルモノハ其濫出ナク又々吝惜ナク其正當ヲ得  
ルニ於テハ此ヲ視テ以テ其國需用ノ程度ヲ知ルヲ得ベキナリ  
人民一個ノ理財法ト政府ノ理財法トヲ相対比シ而シテ人民  
ニ於ケルモ政府ニ於ケルモ其理ハ同一ナリト云フ說アリ然レ  
氏是レ其論旨ニ於テハ相同シト云フヲ得ベケレ氏實際ニ在テ  
ハ固ヨリ相同シカラザルナリ

例之ハ人民ノ財ニ於ケルハ其勤勞ヲ賣リテ得ル所ナレハ之レ  
ヲ掌握スルモ敢テ妨害ヲ生スルナシト雖モ政府ノ財ニ在テハ  
抑モ其人民ノ所有ナルカ故ニ其徵集セシ後チ政府之レヲ掌握  
シテ散セザレハ人民ノ利用ヲ欠妨シ濟世ノ效ヲ為サザルナリ  
殊ニ苛稅ヲ課シテ人民ノ膏血ヲ絞ルカ如キハ大ニ收稅ノ主旨  
ニ悖戾スルモノナリ

政府ノ所務ハ其事ノ直接ト間接トヲ問ハス概シテ人民ノ利用  
ヲ濟スルモノナリ例之ハ通信ノ方法ヲ進歩シ道路ヲ修覆シ橋  
梁ヲ架設シ鑛道ヲ建築シ以テ貿易販賣ヲ盛ニシ人民ノ福祉  
ヲ厚スベキナリ然リ而シテ學校貿易農業等ヲ進歩センノ目的  
ヲ以テ政府ノ歳出ヲ為スヤ其方法ノ便ナレハ便ナル程國益ヲ  
増スヲ多ケレハ政府右ノ目的ヲ以テ支出スレハ其效驗舉テ數  
ナルニ勝ヘザルナリ然レ氏從來政府右ノ目的ヲ以テ充分ノ支出



ヲ為セシトアリシヤ或ハ當今コレヲ為スコアルヤノ疑問ニ至  
リテハ遽ニ之レガ答ヲ為シ易カラザルナリ  
簡約ニ言ハハ政府ノ徵收シタル財即チ課税シテ其人民ノ手ヨ  
リ蒐集シタル財ハ政府ノ手ニ於ケル再生ノ財ナリ即チ此財ハ  
初メ其使用方法ノ當ヲ得ルニ於テハ無論右ノ如ク再生ノ財ト  
ナラザル可ラザルナリ然レモ此等ノ效驗ハ目前ニ現ハルモ  
ノニ非ラス歲月ノ久シキヲ經テ後チ初テ見ルヲ得ベキノミ故  
ニ當時ノ人民或ハ之レヲ知ルニ及バザルモノアラシ其証例ハ  
日本及ヒ自餘ノ邦國ノ如ク新ニ數多ノ便方ヲ提起シ急ニ進歩  
隆盛ヲ為セシ國ニ於テ見ルベキナリ  
即チ右等ノ如ク急ニ開進ヲ謀リシ國ニ在テハ為ニ夥多ノ金額  
ヲ其現時ノ人民ヨリ募収シテ之レヲ其用度ニ費用セザルヲ得  
ガリシナリ而シテ其捐財起業ノ國益ハ其現時ノ人民ヨリモ後

代ノ人民ノ為ニ福祉トナルモノ居多ナルカ故ニ後代ノ人民ト  
雖モ其前代人民(即チ現時ノ人民)ノ手ヨリ出タル費用ノ幾分カ  
ハ復タ其分前トシテ拂フコト定ムルモ敢テ不條理ナルコトナカ  
ルベシ或ハ又タ必ラス拂ハザル可カラザルノ理由ナシトモ斥  
シ難カルベシ然ラハ則チ右ノ如キ總テ將來ノ惠福ノ為ニハ負  
債ヲ後代ニ遺シ之レヲ世襲ニスルガ如キ方法ヲ創起スルモ不  
可ナル所アラザルベシ而シテ此論點ヨリ見レハ現時ノ費額ニ  
於テ其世襲負債ノ分ハ之レヲ其費額ノ條ニ登記セヌシテ現時  
負債ノ額ヲ減スルモ亦タ敢テ不可ナル所ナカルベシ  
政府理財ノ成績ト人民理財ノ成績ト相同シカラザル所ノ原理  
ハ則チ政府ナルモノハ其歳出ヲ根本トシテ歳入ヲ加減スルヲ  
以テ人民ノ歳入ヲ根本トシテ歳出ヲ伸縮スルモノト自カラ反  
對ヲ來サザルヲ得ザルニ由ルナリ



然レハ政府ハ其歳入ヲ以テ恣ニ種々雜多ノ事ニ放銀スベキモ  
ノニアラザルナリ乃チ其歳入ヲ以テ其人民ノ為ニ公益ヲ生シ  
惠福トナルベキ事業ノ資本ト為サバカラザルナリ故ニ余  
輩ガ卑見ニ於テハ政府ナルモノハ其歳入ヨリモ歳出ニ付テ大  
ニ注意思考ヲ要セザルベカラザルベシ  
同種ノ税ナルモ其コレヲ課セラレ、人民ノ思想ニ至テハ各國同  
一ノモノニ非ザルベシ又々其人民ノ思想ノ相同シカラザル  
ハ歳出ニ付テモ同様ナルベキナリ  
故ニ例之ハ甲ノ國ニ在テハ苛税ノ如クナレモ乙ノ國ニ在テハ  
却テ輕税ノ如ク思ハル、アリ又々其歳出ニ於テモ國土人情  
ニ由リテ其成績、頭眩スルコト大ニ相同シカラザルモノアリ故  
ニ課税ノ國民ニ於ケル其大困難ナル所以ハ獨リ其民情ノ如何  
ヲ洞察スルノ難キニ在ルノミナラズ其事ヲ處スルニ百折シテ

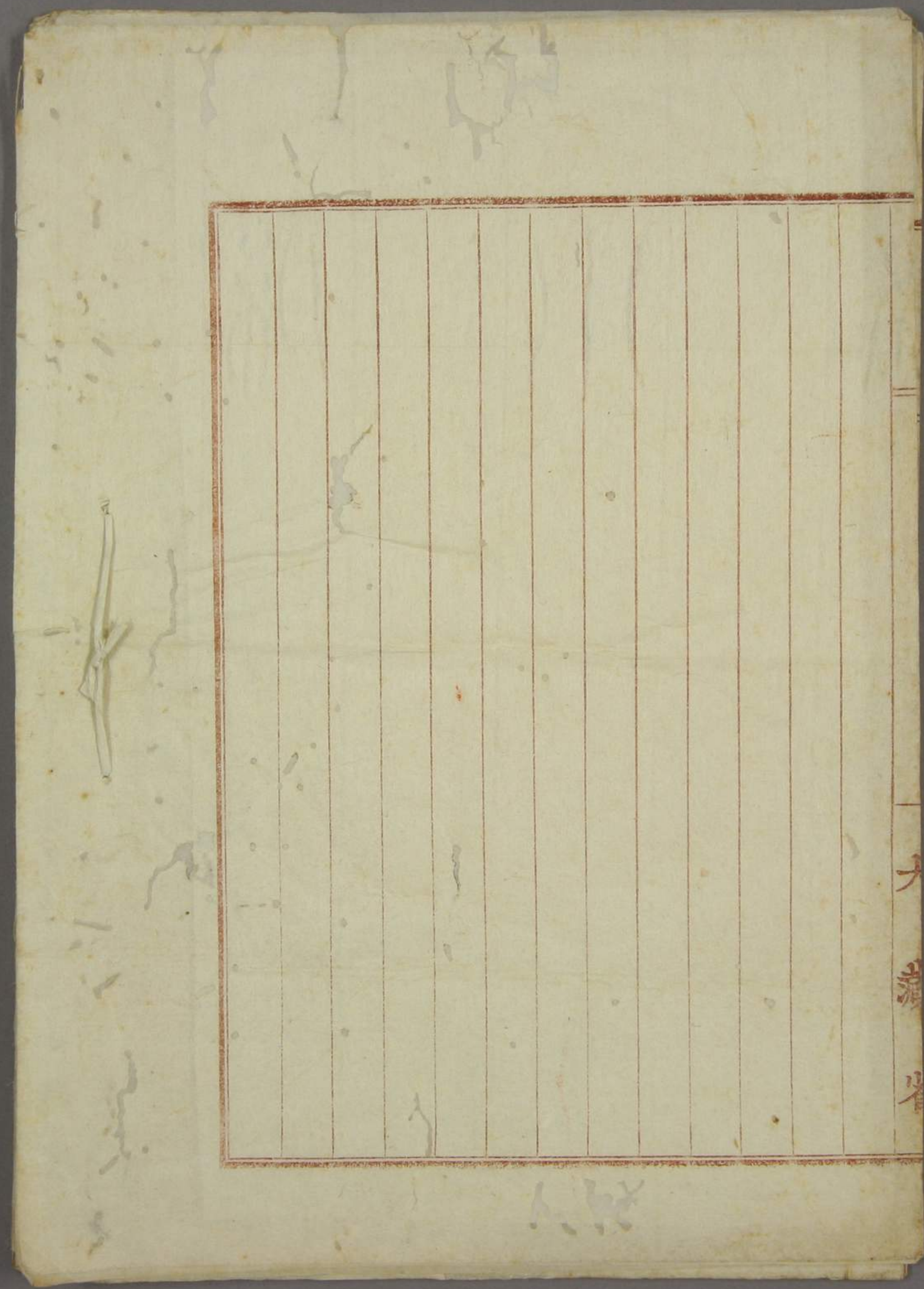
撓マス決行シテ懼レザルノ志操是レ又々欠クベカラザルナリ  
夫レ税ノ最要ナルモノハ関税ナルヲ以テ次号ニ於テ澳國ト曰  
耳曼國ニ於テ初メ取極メタル税法ト并ニ爾後段々改定變化セ  
シ所、税法トヲ論セントス

千八百七十九年四月

ヘンリー、フオン、シーボルト

大藏卿大隈重信公閣下





大  
清  
署